

現場ルポ

25

パルシステム神奈川 横浜菅田センター

稼働から1年 コロナ禍を乗り越え成長



水野千佳センター長

パルシステム神奈川は、2022年7月に県内13番目の配送センター「横浜菅田センター」（横浜市神奈川区菅田町）を開業。コロナ禍で高まる宅配ニーズを受けたこの1年、物量急増など多忙な時期を乗り越えて順調に稼働している。

同センターは、横浜市内の宅配事業の効率化と宅配需要アップへの対応を目的に開設され、配送トラックは生協（プロパー）5台、配達パートナーの流通サー

ビス32台の合計37台で配達している。

配送エリアは、横浜市港北区、神奈川区と保土ヶ谷区の一部。横浜市の東部に位置し、郊外は起伏があり道幅が狭い道路も多く、荷台で運ぶエリアもある。登録組合員は約2万3千人。加入歴の長い組合員も多く一人あたり利用金額は比較的高い。

みんなで乗り越えた

開設後1年の状況について、水野千佳センター長は「新設センターとしてゼロからのスタートだった。当初は経験値の少ない担当も多く、そのなかで物量と配達件数が増加し、全員が対応に追われる日々が続いた。遅くまで配達する日

も多く、その日の業務をその日のうちに完了させることが第一優先であったと振り返る。

現在は、ピークを乗り越えて安定稼働している。当初はセンター長の指示を待つ職員も多かったが、最近では改善提案をする職員も増え、仕事への姿勢もアウトプット型に変わってきた。「センターで働く全員が結束し、一つひとつの課題をみんなで乗り越え、この1年で大きく人も育った」という。

2年目を迎え、「人の成長を原動力に、安全運転を含めた配送品質をさらに高め、地域でのパルシステムブランドの浸透に今までの以上に力を入れていく」考えだ。

人と環境にやさしいセンター

横浜菅田センターの施設の特徴は「人と環境にやさしい」をコンセプトに自然冷媒を使用した冷凍冷蔵設備や屋上緑化、今年度中に太陽光パネルを設置する。また、多様な働き方に対応するサテライトオフィス用個室や動画撮影やオンライン配信に対応するスタジオ型キッチンを配置。喫茶店風の休憩室は内装の木質化でゆとりある空間を演出している。

保冷剤洗浄機で作業負荷軽減

また、コロナ禍での衛生意識の高まりと人手不足に対応し、パルシステム神奈川では初めて保冷剤洗浄機（クレオ製）を導入。カタログ配布約1万4000枚、1日に約4800枚（12ドリー）の冷蔵保冷剤を5人体制で2時間かけ洗浄している。

保冷剤洗浄機は保冷剤の投入から洗浄の作業をライオン化したもので、高水圧で洗浄力がアップするほか、水はね防止、安全装置などを備えている。

従来の食器洗いタイプの洗浄機との比較では作業効率が4倍ほど高い。保冷剤の入った重い箱の持ち運びや作業中に濡れるなど大変な仕事だったが、この洗浄機の導入で作業は改善している（総務財務部施設管理課・増岡伸課長）という。

また、同センターには建物内の全水道水をウルトラファインバブル水にする発生装置を配備。感覚的だがウルトラファインバブル水の活用で保冷剤の洗浄効果も高まっている（増岡課長）。トイレなど水回りの部分での洗浄効果も期待できるといふ。



高まる宅配ニーズを受け、昨年7月に開設した「横浜菅田センター」



保冷剤洗浄機で作業の効率化を図っている